

第3回 羅臼湖部会 議事概要

日時：平成23年12月7日(水)17:00～19:00

場所：羅臼ビジターセンター レクチャールーム

1. 開会

- ・事務局挨拶
- ・配布資料確認

2. 議事

- (1) 歩道の保全修復のための対策工法について
- (2) 歩道の維持管理について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

(1) 歩道の保全修復のための対策工法について

(三宅) 資料1-1から1-4について説明。

また、配布資料に基づき、本日欠席の観光協会の意見について説明。

(上野) ナラ材、カシ材の用意は費用面を考慮すると難しい。仮に実施するのであれば集成材だが、こちらも羅臼湖には適さないのではと考えている。

(川端) 三の沼のデッキについて、全体を1m上げるためには、支持地盤のあると思われる1.5m以深までピンファウンデーションまたは杭を打ち込まないと構造的に難しいと思われる。それらの構造の場合、これまで以上に植生への影響が懸念され、植物の保全という本来の目的と相反するため、植物への影響を小さくするためデッキの高さはできるだけ低くして、写真撮影をする利用者だけ高い場所に上げられるような構造とした。

(梶岡) デッキの1/4を台ではなく、枕木で上げることは可能なのか？

(川端) おそらく設置後は経年劣化等で平らでなくなると思われるため、上部をあまり大きな構造にしない方が良いと思われる。デッキの上部まで、枕木での井桁構造だけにするのは難しいと思われる。

(梶岡) デッキの上の台を大きくすることは可能か？

(川端) 多少は可能だと思われる。

(石田理) デッキ 2 段目の 1×1m を 1×2.5m の階段状にできないのか？

(川端) 可能だと思う。その場合、台の端の高さが約 1m となり、利用者の転落が多少懸念される。

(須藤) 危険防止のため、柵は設置したほうが良いのではないかと思う。

(石田理) 階段状にしても、ある程度の幅を確保できれば転落の危険性は低減できるのではないか。

(三宅) デッキの高さのついてはどうか？

(上野) 今のデッキ部の杭の高さが地上から 1.1m 程度であり、利用者はその杭の上に立って、胸の高さで撮影をしている。

(小林) 湿原保全と眺望確保の問題が相互に摩擦を生じたときに、どちらを優先するか原則を決めておく必要がある。湿原の保全という大きな目的・前提を踏まえて議論を進める必要がある。

(野川) 三の沼デッキ以外の箇所でもその他ご意見はないか？

(石田理) 橋 2 箇所についてはアルミ材となっているが、景観には配慮して欲しい。

(柳澤) つや消しのこげ茶色塗装を施した材料で対応したい。

(石田理) 羅臼湖の最終展望台までの小さな沢がいくつかあるが、木で渡すとなるとまた腐るのではないか。沢の水量にもよるが、不要な箇所もあるのではないかと思うので検証してほしい。何でも整備する必要はないと思う。

(三宅) 現在、小さな木橋を 4 つ設置する計画だが、頂いたご意見を踏まえて再検討したい。

(石田理) 最終展望台のササの部分に仮設携帯トイレブースを設置してほしいので、場所も含めて設計の際に検討してほしい。

(三宅) トイレの話は後ほど議論するが、仮設型携帯トイレブースの設置試験などは整備の後でも実施可能なので、整備終了後に利用者の動向を見てから検討していきたい。

(2) 歩道の維持管理について

(三宅) 資料 2 について説明。

これまでは振興局がとりまとめ、役場、ガイド協議会、山岳会、知床財団にご協力頂き、協働の維持管理を実施してきたところである。整備後の維持管理については、専門的な補修等については行政側で行うが、日常の維持管理についてはこれまで通り、皆様のご協力を頂きたい。また今後は、ウトロ側のガイド事業者の方々にもご協力頂ける体制を検討していきたい。全体の取りまとめについては、羅臼町にお願いしたいと考えている。

(野川) 整備後の維持管理は皆様と一緒に進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。

(遠嶋) とりまとめは羅臼町で行い、今まで通り皆さんと協働で維持管理を行っていききたい。北海道にも、撤去期間中及び撤去後もこれまで通りの協力体制で一緒に取り組んでいただきたいので、よろしくをお願いしたい。

(村松) もちろん、維持管理活動には協力していきたい。

(上野) 現状のメンバーにほぼ近いかたちで進めていくのが良いのではないか。

(山本) ガイド協議会としても維持管理に協力する。お願いとして、維持管理は永続的に行っていかなければいけないので、突発的なものは仕方ないとしても、前もって大まかな実施時期や回数を決めてほしい。そのほうが事業者も予定を組みやすく助かる。

(佐々木) 現在、維持管理に参加する団体が少し偏っているように思うので、協議会については、斜里町・羅臼町の町全体でやるという意味合いで、観光協会等にもご参加いただき、もう少し大きく組み直してはどうか。

(小林) 質の高い利用のためには、利用者の意識を高めることも必要。利用者からも細かい情報を得られ参画できるような管理体制を作ってみてはどうか。そのために利用者に現在位置がわかる道標の設置についても検討すべきである。

(3) 今後のスケジュールについて

(三宅) 資料3について説明。

(野川) なるべく利用できる区間を残しながら整備をしたいが、一部整備のために通行止めとすることがあると思われるのでご了承いただきたい。

(石田理) 二の沼木道撤去の際は、全面通行止めにするのか。通行止めにされると何もできなくなる。

(上野) 新ルートを開設してから、撤去を行うつもりでいる。

(三宅) 先に二の沼・三の沼展望デッキまでの新ルートを開設してから撤去を行うので、全面通行止めという状況にはならない。

(石田理) 新ルートはバス停の設置とは関係なく、開設したら利用できるようになるのか。

(上野) そのあたりについてはまだ道路管理者との調整が必要となる。

(野川) 入口～二の沼までの新ルートと既存ルートの2ルートが共存している時期はあるのか。

(上野) 多少の期間は共存するのもやむを得ないと思うが、新ルートの開設にはさほど時間はかからないと考えている。ただ、付替えた歩道の入口への国道からアクセスの問題がある。

(三宅) バス停設置に関する検討状況についてご説明頂きたい。

(須藤) 10月に入口の位置が確定したことを受けて、現地確認後に測量を実施した。山側については道路敷地内でバス停を整備するだけのスペースがあることを確認した。また、観光協会から要望のあった入口反対の谷側のバス停整備については、擁壁から張出す形となり、予算の面からも現実的ではないと判断した。その代わりに、現在、羅臼方面行のバス停がある辺りであれば対応可能であることを確認している。今後、バス停を設置するための予算要求等を行っていきたいと考えている。

(佐々木) 羅臼湖入口のバス停は送迎車の転回場所としての利用も期待されているが、谷側のバス停が峠方向にずれても入口付近での送迎車の転回は可能か？

(須藤) 大型バスは難しいが、普通車のサイズであれば十分転回可能である。

(三宅) ご出席の皆様の意見はどうか？バス停が多少離れていてもよいか？

⇒ 一同了解。

(4) その他

(梶岡) 三の沼デッキ部分の構造については予算の関係上、本日決定したいと考えている。提案として2段目の大きさを原案の1m×1mから1m×1.25mに変更し、一番上の台は1m×1mとして積雪時には取り外せる構造とする。また、また2段目より上を後方に移し、転落防止柵は杭などを打ち込めないため、台などに穴を開けて鉄ピンとロープで対応する案でいかがか？よろしければ、本案で進めさせてもらえればと思う。

⇒ 一同了解。

(野川) 次に歩道入口における対応について話を進めたい。

(三宅) 資料4の説明

- ・歩道入口側の看板については必要なので、状況を見て設置したいと考えている。
- ・羅臼町・知床世界遺産協議会より、靴洗い場の設置についてご指摘を頂いている。今後、管理面等の検討が必要と考えている。
- ・トイレについては、携帯トイレブースの設置、バイオトイレの設置、現状のまま（設置しない）の3案が考えられる。それぞれのメリット・デメリットを資料にまとめている。設置する場合、維持管理体制の検討が必要となる。

(須藤) 携帯トイレブースの平面積はどれくらいか。

(柳澤) 1つだいたい一畳分くらい。

(石田理) 携帯トイレブースを設置するのであれば四の沼や羅臼湖付近が適切だと思う。携帯トイレはあくまでも緊急用であり、入口近くであれば、車利用が前提だが峠まで行けばよい。仮設ブースでよいので、設置について検討していただければと思う。

(三宅) どこに設置するかという問題もあるが、あまり奥に設置すると維持管理が大変になる。入口だと、維持管理は容易になるメリットがある。

(上野) 具体的な設置場所のイメージはあるか？

(石田理) 羅臼湖付近が良いのではないかと思います。また、レベルの高い利用を目指す中で、携帯トイレの利用も必要なのではないかと思います。実際に現行のルートは、携帯トイレを使用できる場所がない。

(上野) 付替えルートの通るハイマツ林に奥の方に設置するようなイメージか。

(三宅) 設置場所や費用についても検討が必要だが、問題はしっかりとした維持管理体制が築けるかどうかであると思う。

(佐々木) 羅臼岳の場合はどうなっているのか。

(野川) 羅臼岳の場合は銀嶺水に2基設置する予定で検討を進めている。維持管理についてはこれから検討するが、設置者の環境省も負担するが、回収については斜里町の方でしっかりやって

頂けることとなっている。いずれにせよ地域の協力がなければ導入は難しい。

（石田理）現在でも実際に携帯トイレは使っていて、羅臼町も斜里町もしっかり回収を行っている。それが羅臼湖でも行われても特に問題ないのでは。点検については、実際に巡視をしているアクティブレンジャーや GSS 等にお願いすればよいのでは。

（上野）巡視はしているが、正式に仕事の範囲の話となると別になる。やるにしても協働でどうしていくかを検討しないと、すぐにそういう話にはならない。

（石田理）もし協議会ができれば維持管理を受け持ち、実際には我々ガイド事業者が羅臼湖に行った際は必ず点検するようにすればよいのでは。全ガイド事業者が確実に協力するのであれば、8割くらいの日数はカバーできるのではないかと思う。

（三宅）我々ももちろんだが、ガイド事業者の方々が必ず点検して、清掃をしていただけるという約束と協力体制を頂けるなら、設置についてはある程度前向きに検討できると思う。

（石田理）仮設ブースの場合は空気が籠るので、換気についても配慮する必要があると思う。

（石田理）ひとまず要望として、羅臼岳のように仮設でよいので試験設置をして欲しい。実際にどの程度の利用があり、ガイド事業もどの程度協力するのかを把握する必要があると思う。また、協議会を作る際に、羅臼湖を利用する全てのガイド事業者に参加してもらう必要があると思う。

（三宅）個人的には奥と入口の2箇所トイレを設置するのは、羅臼湖のルート規模や整備の水準なども考慮すると少し手厚すぎかなと思う。

（佐々木）賛成である。

（石田理）2箇所と言っても、奥は仮設のブースがある程度であり、入口のトイレとは切り離して議論をお願いしたい。

（野川）現在、羅臼湖の利用の4割程度がガイド利用である。携帯トイレに関する他地域の事例として、利尻山もガイド利用の多い地域であり、そこで携帯トイレの利用が普及したのは、管理への協力も含めてガイド事業による功績が大きい。今回、心強いご意見を頂いたので、実証試験について前向きに検討していきたい。

（佐々木）入口に靴洗い場は設置するべき。沢から水を引いて利用すればよいのではないか。

（野川）トイレについては実際の利用動向も踏まえて、今後、段階を追って検討していきたい。

靴洗い場については現場を確認して、具体的なアイデアを出し合って、利用に合わせて検討していきたい。

（須藤）確認になるが、資料 3 に H24 年に入口～二の沼間の新規ルート開設とあるが、新規ルートを実際に利用するは何月頃になるのか？バス停の整備は間に合わないが、ガードケーブルや入口の整備等は必要なのでは。

（上野）できるだけ早い時期に開設したいと考えている。雪が解けてから 8 月前頃には、ある程度の作業を進めたい。入口の看板等についても、ひとまず仮設でよいので設置する方向で相談していきたい。

（須藤）何も整備してないというのはまずいので、バス停の整備が間に合わなくても、ガードロープを一部外したりして、仮設でよいので何らかの整備をする必要がある。

（山本）入口を切替えた際は、何らかの方法で広報をする必要がある。ガイド付利用であればよいが、個人では気づかず旧ルートを利用することも考えられる。

（上野）HP などいろいろな手法での広報が必要だと思う。そのあたりのことも含めて、早いタイミングでの協議会の立ち上げが必要になると思う。

（小林）資料のスケジュールには、木道撤去後の植生回復や新規の木道設置による影響の評価・モニタリング等について触れられていない。本整備の目的は植生の保全や回復であることから、これらは当然必要となってくるが、今後実施するという認識でよいか。整備後のモニタリング等については影響を把握するため一定の期間行う必要がある。

（三宅）もちろん、実施するつもりである。侵食の進んでいる箇所についてはササ等を利用した土留め等を考えている。湿原域については杭を地際で切り、特に対策は行わずに経過のモニタリングを考えている。

（小林）今後、おそらく全国的に木道の撤去が行われると思われるが、撤去後の評価やデータを取っておくことが他地域の参考になるので大事。いろいろな技術がある中で、どれが良いのかは環境の違い等がある中、一般化するのは難しいとは思われるが、個々のデータをしっかり蓄積しておくことが、新たな問題発生に対応するために必要。

（野川）今後、維持管理のことについてまた皆さんにご相談できればと考えている。本日はありがとうございました。

以上